

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名

② 大学等の設置者

③ 設置形態

④ 所在地

⑤ 申請するプログラム又は授業科目名称

⑥ プログラムの開設年度

⑦ 教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

⑧ プログラムの授業を教えている教員数 人

⑨ 全学部・学科の入学定員 人

⑩ 全学部・学科の学生数(学年別) 総数 人

1年次	<input type="text" value="129"/> 人	2年次	<input type="text" value="115"/> 人
3年次	<input type="text" value="111"/> 人	4年次	<input type="text" value="98"/> 人
5年次	<input type="text" value=""/> 人	6年次	<input type="text" value=""/> 人

⑪ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

⑫ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑬ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑭ 申請する認定プログラム

連絡先

所属部署名	<input type="text" value="大学事務局長"/>	担当者名	<input type="text" value="天本昌史"/>
E-mail	<input type="text" value="syomu@kiis.ac.jp"/>	電話番号	<input type="text" value="092-928-4000"/>

学校名：九州情報大学

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 具体的な修了要件

プログラムを構成する科目下記1から6までを必修科目とし12単位を修得し、下記7から12までの選択科目の内3科目6単位以上の合計18単位以上を修得すること。

③ 授業科目名称

授業科目名称		授業科目名称	
1	情報リテラシー演習	26	
2	情報学入門	27	
3	基礎数学	28	
4	情報倫理	29	
5	統計学入門	30	
6	経営情報論Ⅰ	31	
7	マーケティング論	32	
8	消費者行動論	33	
9	マーケティング・リサーチ	34	
10	経営分析	35	
11	ビジネスプログラミング	36	
12	経営情報論Ⅱ	37	
13		38	
14		39	
15		40	
16		41	
17		42	
18		43	
19		44	
20		45	
21		46	
22		47	
23		48	
24		49	
25		50	

学校名： 九州情報大学

プログラムの履修者数等の実績について

学部・学科名称	収容定員	令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度		履修者数合計	履修率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経営情報学部経営情報学科(社会科学)	240	148	0	3	0									151	63%
経営情報学部情報ネットワーク学科(社会科学)	200	87	1	6	0									93	47%
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
合計	440	235	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	244	55%

プログラムの授業内容・概要

① プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業概要	
<p>(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>日常生活や社会で起きている変化を知り、データやAIを活用した新しいビジネス／サービスについて学ぶ。本学経営情報学部の特徴を活かして、現代社会における情報システムやIT、ICTの最新動向について実例を交えて自らの生活とそれらがどのように密接に関連しているかを理解する。例えば、製造・流通・金融・ビジネスにおける活用事例や、消費者行動、企業の経営分析などを通して、多角的に社会の動向を捉える。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報学入門	現代社会における実例の紹介(4, 5)、データAI利活用の最新動向(8, 9, 12, 13)
	経営情報論Ⅰ	製造・流通・金融における情報システム概要と実例(2~12)、データ活用の最新動向(14, 15)
	経営情報論Ⅱ	ビジネスにおけるデータ利活用の最新動向(5~12)
	マーケティング論	e-マーケティング、IT、ICTの最新動向(13, 14)
	消費者行動論	最新の消費者行動理論(7)
	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチ(10)、家計調査年報を利用した分析(12~15)
	経営分析	企業の経営分析(10~14)

<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	授業概要	
	<p>日常生活や社会の課題を解決するために、社会でデータやAIを活用した新しいビジネス／サービスがどのように生まれてきているのかについて学ぶ。本学経営情報学部の特徴を活かして、現代社会における情報システムやIT、ICTの最新動向について実例を交えて自らの生活にどのように密接に関連しているかを理解する。例えば、製造・流通・金融・ビジネスの活用事例や、消費者行動、企業の経営分析などを通して、どのようにデータが利活用されているかについて理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報学入門	社会で活用されているデータ(5, 7, 9, 13)、データAIの活用領域(6, 8, 12)
	経営情報論Ⅰ	製造・流通・金融における情報システム概要と実例(2~12)、データ活用の最新動向(14, 15)
	経営情報論Ⅱ	ビジネスにおけるデータ利活用の最新動向(5~12)
	マーケティング論	現代におけるマーケティング(15)
	消費者行動論	消費者行動の分析(14, 15)
	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチ(10)、家計調査年報を利用した分析(12~15)
	経営分析	企業の経営分析(10~14)

授業概要																																							
<p>数理・データサイエンス・AIが現在様々な場面で利活用され価値を創出していることについて学ぶ。本学経営情報学部の特徴を活かして、現代社会における情報システムやIT、ICTの最新動向についても実例を交えて数理・データサイエンス・AIが創出する価値について理解する。例えば、製造・流通・金融・ビジネス・医療現場における活用事例や、消費者行動・企業経営の分析などを通して、どのようにデータが利活用され価値を創出しているかについて理解する。</p>																																							
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">授業科目名称</th> <th style="width: 70%;">講義テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">情報リテラシー演習</td> <td style="text-align: center;">表計算ソフトを用いたデータ分析の基礎(10, 11)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">統計学入門</td> <td style="text-align: center;">データ・AI利活用のための技術(2~14)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経営情報論Ⅰ</td> <td style="text-align: center;">製造・流通・金融における情報システム概要と実例(2~12)、データ活用の最新動向(14, 15)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経営情報論Ⅱ</td> <td style="text-align: center;">ビジネスにおけるデータ利活用の最新動向(2~12)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">情報学入門</td> <td style="text-align: center;">医療に関連したデータの利活用(7, 8, 12)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">消費者行動論</td> <td style="text-align: center;">消費者行動の分析(14, 15)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">マーケティング・リサーチ</td> <td style="text-align: center;">マーケティング・リサーチ(10)、家計調査年報を利用した分析(12~15)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経営分析</td> <td style="text-align: center;">企業の経営分析(10~14)</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	授業科目名称	講義テーマ	情報リテラシー演習	表計算ソフトを用いたデータ分析の基礎(10, 11)	統計学入門	データ・AI利活用のための技術(2~14)	経営情報論Ⅰ	製造・流通・金融における情報システム概要と実例(2~12)、データ活用の最新動向(14, 15)	経営情報論Ⅱ	ビジネスにおけるデータ利活用の最新動向(2~12)	情報学入門	医療に関連したデータの利活用(7, 8, 12)	消費者行動論	消費者行動の分析(14, 15)	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチ(10)、家計調査年報を利用した分析(12~15)	経営分析	企業の経営分析(10~14)																				
	授業科目名称	講義テーマ																																					
	情報リテラシー演習	表計算ソフトを用いたデータ分析の基礎(10, 11)																																					
	統計学入門	データ・AI利活用のための技術(2~14)																																					
	経営情報論Ⅰ	製造・流通・金融における情報システム概要と実例(2~12)、データ活用の最新動向(14, 15)																																					
	経営情報論Ⅱ	ビジネスにおけるデータ利活用の最新動向(2~12)																																					
	情報学入門	医療に関連したデータの利活用(7, 8, 12)																																					
	消費者行動論	消費者行動の分析(14, 15)																																					
	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチ(10)、家計調査年報を利用した分析(12~15)																																					
	経営分析	企業の経営分析(10~14)																																					

<p>(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p> <p>※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当</p>	授業概要	
	<p>データを活用する際の留意事項について学ぶ。具体的には、3つの内容について理解していく。1つ目はネット社会で安全に暮らすための情報モラル、情報倫理についての理解を深める。2つ目に人はどのように情報と関わっていくべきかという情報との関わり方の問題について理解する。3つ目にデータや情報、プライバシーなどをどのように守るかという情報セキュリティに関する問題について理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報リテラシー演習	情報モラル・セキュリティ(13)
	情報倫理	情報セキュリティ・情報倫理(10～14)
	経営情報論Ⅱ	セキュリティとリスク管理、プライバシーと情報倫理(14, 15)

授業概要		
<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用に関するもの</p> <p>※モデルカリキュラム基礎2-1、基礎2-2、基礎2-3が該当</p>	<p>実際のデータを用いた演習を通して、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法について学ぶ。例えば、情報リテラシー演習の時間には、毎回の授業中に実施したタイピングデータを各自で収集し、その結果を可視化し、自己分析することによって、数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法を身につける。また、外部ポータルサイトを利用し、2次データの取得・分析を通して、実社会における数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法を理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報リテラシー演習	データを扱う(11)、データを説明する(12)
	統計学入門	データ・AI利活用のための技術(2~14)
	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチ(10)、家計調査年報を利用した分析(12~15)
	経営分析	企業の経営分析(10~14)

② プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「選択」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業科目名称
統計及び数理基礎	基礎数学、統計学入門
アルゴリズム基礎	
データ構造とプログラミング基礎	ビジネスプログラミング
時系列データ解析	
テキスト解析	
画像解析	
データハンドリング	
データ活用実践(教師あり学習)	
その他	

③ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.kiis.ac.jp/general/department/kp/>

④ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会においてどのようにデータやAIを取り扱っているのか、そしてそれらを活用しているのかに関する知識を身につけるとともに、データの取り扱い方やデータを読む力などの基礎的な能力を身につける。

学校名：九州情報大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会規則

② 体制の目的

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とした数理・データサイエンス・AI教育プログラムの実施に関する重要な事項を審議する。

③ 具体的な構成員

経営情報学科 准教授 橋爪善光
 経営情報学科 准教授 秋吉浩志
 情報ネットワーク学科 講師 荒平高章
 情報ネットワーク学科 助教 ディンダ・プラマンタ
 教務課主査 幸野憲道

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

科目のほとんどを低学年に設定し、基礎・教養科目の中からデータサイエンス教育に関連のあるものを選定することで、履修者数の確保を図る。

データサイエンスと本学の特色である経営・会計・情報の融合教育は非常に親和性が高く、該当科目を履修することで、データサイエンス教育の認定だけでなく、経営情報学の基礎力を修得できるように工夫することで、多くの学生が積極的に履修をするように働きかける。

各年度の履修率の目標は100%とする。さらに本プログラムの修了者数の目標を以下の通りとする。

令和3年度 10名
 令和4年度 20名
 令和5年度 30名
 令和6年度 40名
 令和7年度 50名

令和2年度までは、データサイエンス教育担当教員会議において、本学におけるデータサイエンス教育の履修者数向上に向けた検討を行ってきたが、令和3年度より、規則を整備し、名称をKIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会に変更するとともに構成員に事務職員を加えたことにより、積極的に学生へデータサイエンス教育へ促す体制が整った。卒業必修科目である情報リテラシー演習が本プログラム必修科目となっているため、履修率は100%を達成可能であるが、その1科目で終えることなく他のデータサイエンス教育科目を全学生が履修するよう促していきたい。その為、オリエンテーション等で本プログラムを修了する事のメリットなどを周知し、履修を促進している。また、令和3年度より修了者には修了証を授与することとし、令和4年度以降の修了者数の増加を目指したい。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

運営委員会の設置により、各学科に担当者を配置し、全学的な履修を支援・促進している。本プログラムにおける必修科目6科目及び選択科目6科目中5科目は両学科共通科目で構成されている。また選択科目のうち1科目は情報ネットワーク学科開講科目ではあるが、本学では他学科履修のうち16単位までを卒業単位として認めているため、全ての科目を学科によらず受講可能となっている。多くの学生が積極的に希望できるようにするために、1年次前期開講の必修科目を設定し、プログラム認定制度の存在を意識させ、自然な形で受講できるようにしている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学部は、2年次より段階的に専門科目に移行していくようにカリキュラムが編成されている。したがって、あえて1年次、2年次開講科目を重点的に配置をした。そうすることで、入学時からプログラムに関するアナウンスをできるだけでなく、そのアナウンスが直接履修指導につながるため、より多くの学生への履修促進効果が期待できる。

具体的な方法としては、以下の取り組みが挙げられる。

- 従来より実施してきた各学期初日のオリエンテーションにおける、本プログラムに関するガイダンス資料の配布
- 本学ホームページに本プログラムの概要を掲載し、在学生だけでなく、受験生など入学前からの意識付け
- 各学期はじめに行われるゼミナール単位での成績配布の際の、教員による本プログラムについてのアナウンス
- 本学公式TwitterやInstagramなどのSNSを用いた周知

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学は、教員一人あたりにつく学生数が少ない少人数教育を実施しているため、各担当教員が担当学生の現状を履修状況を含め把握している。したがって、履修指導については、以前よりきめ細かな指導を行ってきた実績があり、その延長線上に本プログラム認定のための履修指導を行うことは可能である。

また、講義については、講義時間外でのオフィスアワーが設定されており、学生の質問や相談といった就学相談に関する制度は確立されており、講義内容に関するフォロー体制は整っている。

さらに、本教育プログラムの履修については教務課で管理し、学生は教務課にて質問が可能な体制も整備しているため、多くの学生が修得できるようサポート体制を整えている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学は、教員一人あたりにつく学生数が少ない少人数教育を実施しているため、各教員が担当学生の現状を履修状況を含め把握している。したがって、履修指導については、以前よりきめ細かな指導を行ってきた実績があり、その延長線上に本プログラム認定のための履修指導を行うことは可能である。

また、講義については、講義時間外でのオフィスアワーが設定されており、学生の質問や相談といった就学相談に関する制度は確立されており、講義内容に関するフォロー体制は整っている。また、3、4年生の上級生による学習相談室も週に1回開室しており、多くの学生が気軽に学習指導や質問、相談が出来るような体制を整えている。

学校名：九州情報大学

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務課において、プログラムの履修・修得状況のデータをピックアップし、データサイエンス教育担当でプログラム履修者数を分析している。履修者数については卒業必修となっている科目も本プログラムの必修科目となっているため、本プログラム対象となる令和元年度入学以降の学生に関してはほぼ100%の学生が履修している。また、本プログラムは2年間かけて修了するプログラムとなっているため、令和2年度が修了者1号の出る年度であり修了要件を満たした学生は1名であった。
学修成果	FD委員会が実施している授業改善アンケートの項目のうち、新知識・考え方が得られたという項目においてプログラム対象科目に関する学生の理解度を推し量ることが出来る。その結果を各科目担当教員が評価・改善に活用している。本プログラム対象科目においては8割以上の学生が新知識・考え方が得られたと評価しており、データサイエンスに関するリテラシー教育は順調だと評価できる。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	本プログラム必修科目である情報リテラシー演習において上記授業改善アンケートとは別に学生の理解度を測るアンケートを15回授業の初回、中間、最終回と3回実施した。そのアンケートの結果、初回アンケート結果に比べて最終アンケート結果ではおよそ10%から13%程度増加するという結果となった。これらの結果から、本プログラム必修科目であり、データ分析の一連の流れを体験する内容を組み込んだ情報リテラシー演習という科目がうまく機能し学生の理解度をあげているといえる。しかし、本学は留学生も多く在籍しており、言葉の壁というのもこのアンケート結果に反映されている可能性もあり、今後も十分な検討・改良が必要であると考えられる。以上より、本学における学生アンケートを通じた習熟度の可視化は可能であり、この経験を他科目でも実践することで、さらに学生の講義内容の理解度の把握と講義へのフィードバックに活かすことが可能となる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラム必修科目である情報リテラシー演習において実施したアンケート結果は、次年度における本科目の内容や計画等に反映させており、学生に対する教育的配慮を充分に実施している。ただし、この教育効果に関する知見は、今年度以降のアンケート結果から得られるため、その推奨度やアンケートの効果については引き続き検討していく必要がある。

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	新型コロナウイルス感染防止対策の為、令和2年度は年2回ある履修登録等のオリエンテーションの際に実施する予定であったデータサイエンス教育に関する周知が困難になった。その為、データサイエンス教育に関する周知は、コミュニケーションと自己発見の授業や情報学入門の授業内でのアナウンス及び1年生へのコースガイダンスの際に行った。全学的な履修率に関しては卒業の必修科目が本プログラムの科目に含まれるため100%となるが、修了者を増やす為にはオリエンテーション等の全学生が集まる機会を用いた周知が必要になると考えている。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和元年度入学者カリキュラムよりはじまり、2年生開講科目も必修としている為、令和2年度に初めて修了要件を満たすことができる。その対象学年は令和3年度に3年生となるため、今後の就職活動状況や進路、その後の企業の評価について把握する仕組みについてはこれから構築していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラム開始時に、福岡県中小企業家同友会の専務理事と本学の取り組みについてお話を頂いた。まさに中小企業にそのような人材がこれから必要であると好感触を得た。今後同プログラム修了者が就職した後に様々なフィードバックを頂いてよりよい教育プログラムにしていきたいと考えている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムのリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、例えば情報学入門においてデータサイエンスやAIがどのように研究に活用されているかなど学んだ先にある果実を提示することで好奇心を促す内容としている。また、研究だけでなくマーケティングや消費者行動についても講義中に具体的な事例をあげることでデータサイエンスやAIの活用範囲が広い事を伝えるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本学の学生の多くは入学までに数学等理系科目についてあまり学習してきていない。そのような学生に対してどのような内容をどのように講義するとよいかデータサイエンス科目担当教員会議において議論し、その講義内容や実施方法の見直しを毎年考えている。参考となる材料としては、本学FD委員会が実施している授業改善アンケートの学生からのアンケートや講義中における学生の反応等を情報共有をし見直しについて考えている。例えば、情報リテラシー演習においてこれまでは単にWord、Excel、PowerPointの使い方を独立に講義していたものを、自らのタイピング練習の打鍵数のデータを半期の講義期間中毎回取得し、それをExcelを用いてビジュアル化し、Wordを用いてレポート、PowerPointを用いて発表する、といったデータサイエンスの流れを体験できるような構成にした。

※公表している場合のアドレス

② 自己点検・評価体制における意見等の公表の有無

有

<https://www.kiis.ac.jp/general/guide/kokai/>

ナンバリング (Numbering)						
1GCB-5780-12CS						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
情報リテラシー演習 (教職関連科目 必 高等学校 情報)	共通	1年生・前期	2単位	必修	リテラシー担当教員	
情報リテラシー演習Ⅰ (教職関連科目 必 高等学校 情報)						
履修の前提条件	パソコンの基本操作やタイピングに慣れていることが望ましい。					
授業概要 (Course Outline)						
少人数クラスに分かれて担当教員が分担して情報リテラシーの基礎となるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどに関する基礎技能を学ぶ。必要に応じて合同授業を実施することがある。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					
態度・志向性の観点 Personal Qualities	問題解決力 Problem Solving					
	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
市民としての社会的責任 Social Responsibility						
生涯学習力 Lifelong Learning					○	
到達目標 (Objectives)						
パソコンの基本操作やタイピングに習熟すること。オフィスソフト(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の基本操作ができること。オフィスソフトを用いて、基本的な定型文書を作成できること。セキュリティや情報モラルの基礎を理解し、よくある事例については対処できること。個人情報への扱いについて理解し、行動できること。						
事前学習の内容(時間)	テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h)					
事後学習の内容(時間)	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
ただ実習をこなすだけでなく、卒業論文や科目レポートの作成を念頭に、学ぶ機能がどう使えるかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
問い合わせ、報告、連絡、相談などは、各担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
MOS(Microsoft Office Specialist)の合格者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇します。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	ネットワークの設定		
第2回	Officeソフトのインストール		
第3回	授業計画説明, パソコン入門		
第4回	ウィンドウ操作, タッチタイピング実習		
第5回	レポートの提出の仕方ワープロソフト(ビジネス文書の基礎)		
第6回	図書館の利用, プレゼンテーションソフト(プレゼンテーションとは)		
第7回	ワープロソフト(ビジネス文書、表でわかりやすく)		
第8回	ワープロソフト(表でわかりやすく、図でみせる)		
第9回	表計算ソフト(入力の基礎、表の基礎)		
第10回	表計算ソフト(表と書式、数式の基礎)		
第11回	表計算ソフト(関数、グラフの基礎)		
第12回	プレゼンテーションソフト(見やすいスライド)		
第13回	情報モラル・セキュリティ(ネット社会で安全に暮らすためには)		
第14回	インターネットの利用(ホームページ閲覧、検索エンジンの活用、長所と短所)		
第15回	定期試験等		
第16回	振り返り		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice2016対応	noa出版	noa出版	
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
必要に応じて指示します。			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
平常点として、授業への参加状況、毎回タイピングの進捗状況や課題提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。			

ナンバリング (Numbering)						
1BIN-5690-12ES						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
情報学入門 (教職関連科目 選 高等学校 情報)	219～ ～218	1年生・前期	2単位	選択 必修	合田 和正	
履修の前提条件	情報を学ぶ意識を強く持つことを期待します。					
授業概要 (Course Outline)						
本講義は、情報処理や情報ネットワークのような技術的な内容ではなく、情報や情報メディアおよびそれらの活用、活用する際の姿勢・態度について学ぶ。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	問題解決力 Problem Solving					○
	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					
	生涯学習力 Lifelong Learning					○
到達目標 (Objectives)						
情報や情報技術に興味を持ち、それを扱う際に欠かせない基礎知識を学び、またメディアリテラシーの素養を育む。						
事前学習の内容(時間)	参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h)					
事後学習の内容(時間)	授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げする。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
ただ授業を受けるだけでなく、ネットショッピングサイトのデザインを目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。 授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、 関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	入門(1)	身近な例から始める情報と社会、情報とは(値、データなど)	
第2回	入門(2)	情報の種類と特性(アナログ、デジタル)、意味、価値	
第3回	メディア(1)	媒体:メディアの種類と特性、媒介される対象としての情報	
第4回	データサイエンス(1)	データ、情報、知識	
第5回	データサイエンス(2)	人材、技術、実例	
第6回	情報通信システム(1)	情報通信産業、スマートシティ	
第7回	情報通信システム(2)	モバイル通信	
第8回	情報と医療(1)	遠隔医療	
第9回	情報と医療(2)	再生医療と情報	
第10回	情報セキュリティ入門(1)	暗号入門	
第11回	情報セキュリティ入門(2)	PKI(Public Key Infrastructure)	
第12回	生体情報(1)	脳、生物、歩行	
第13回	生体情報(2)	スポーツと情報	
第14回	メディア(2)	情報メディアの光と影	
第15回	まとめ		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
資料を配布します。			
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
「痛快!コンピュータ学」	坂村健	集英社	978-4087474282
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。			

ナンバリング (Numbering)						
1GGB-5270-12E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
基礎数学	共通	1年生・前期	2単位	選択	大浦 洋子	
履修の前提条件	高校までの数学を復習して下さい。					
授業概要 (Course Outline)						
情報、経済、経営などの分野では、現象のモデル化やシミュレーションによって現状把握や将来予測などが盛んに行われています。モデル化の基礎となる数学を理解し、数学がどのように使われ、活用されているかを学びます。また、シミュレーションに必要な不可欠なコンピュータと数学の関りについても学びます。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					○
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	問題解決力 Problem Solving					○
	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					
	生涯学習力 Lifelong Learning					
到達目標 (Objectives)						
例題や問題を通して定義や定理の本質を理解することと、データ解析の基礎となるモデル化の意義を理解することを目標とします。						
事前学習の内容(時間)	次回の学習範囲について、テキストの内容を熟読し、例題の予習を行って下さい。分からないところは、インターネットのサイトなどを参考したり、講義中に補完して下さい。(各回ごとに2.0h)					
事後学習の内容(時間)	講義内容をもとに独自で調べた内容などを追記したり、講義中に終了しなかった課題を完成させ、理解できなかった内容は書籍やWebなどを通して確実に理解するようにして下さい。(各回ごとに2.0h)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
講義中にはできなかった練習問題・応用問題などを自ら進んで解くようにして下さい。また、Maxima による数式処理システムの実習も行いますので、積極的に取り組む様に心掛けて下さい。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室(271)を訪ねてください。オフィスアワーの時間は、掲示を参照して下さい。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	数の分類と文字式		
第2回	式の計算1 (展開と因数分解)		
第3回	式の計算2 (方程式と不等式)		
第4回	式の計算3 ((複素数と2次方程式))		
第5回	式の計算4 (整式の割り算と因数定理)		
第6回	関数1 (1次関数、2次関数)		
第7回	関数2 (分数関数、無理関数)		
第8回	関数3 (指数関数、対数関数)		
第9回	関数4 (三角関数)		
第10回	関数5 (関数の極限)		
第11回	関数6 (微分と積分)		
第12回	数学とその応用1 (コンピュータによる数学の限界)		
第13回	数学とその応用2 (連続と離散)		
第14回	数学とその応用3 (数式処理システム)		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
基礎数学 式計算から微積の初歩まで	小澤善隆 編集 永井 敦 他	裳華房	ISBN978-4-7853-1556-6
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
適宜紹介			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
平常点(確認プリント、提出物など)、定期試験の総合評価とします。			

ナンバリング (Numbering)						
1GGN-6710-12CS						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
情報倫理 (教職関連科目 必 高等学校 情報)	共通	1年・後期	2単位	必修	中山 彰信	
履修の前提条件	情報産業、マスメディアの動向に注意し、著作権侵害事件などの報道に注意を払うこと。					
授業概要 (Course Outline)						
現代は文明の発達によって文化の喪失の現象が起こっている。倫理は人間社会の文化の上に発達しているものであった。しかし、現代社会が文明の発達によって複雑な社会となり、人々の思考も複雑になっている。その中で情報技術の発達はめまぐるしく、人と人との対面的社会からサイバースペースによる空間の社会の到来により人々の心が大きく変化している。この情報倫理は、情報を巡る困難な社会の中で人として生きる道を考察するものである。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					○
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					○
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
生涯学習力 Lifelong Learning						
到達目標 (Objectives)						
情報社会の中にあって、確かな人間として道を求めることをテーマとする。また、ネットワーク時代の情報倫理に関して十分な知識を習得し、実践することができる。						
事前学習の内容(時間)	最近のメディアの動きに注意し、ニュースによる社会の問題をまとめる。(各回ごとに2.0h)					
事後学習の内容(時間)	問題点の経緯の分析を試みてノートに整理する。(各回ごとに2.0h)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
メディアの動きに設定したテーマに基づいてディスカッションを行います。積極的参加を望みます。また、情報社会から自主的テーマなどについて発表していただきます。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
連絡、問い合わせ、相談等は授業の前後の時間に中山まで。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
講義のカーボン・コピー・ノートを毎時講義終了後に提出していただきます。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	はじめに(講義の概要、受講上の諸注意)		
第2回	情報倫理について(情報社会の問題点を考える)		
第3回	倫理の意味するもの(人間の学問として)		
第4回	現代人の倫理観について		
第5回	情報社会における倫理の所在		
第6回	情報社会に埋没する社会		
第7回	情報技術の発展と情報社会		
第8回	情報社会の素描		
第9回	シングルメディアからマルチメディア		
第10回	情報と人間のかかわりの問題(情報倫理の必要性)		
第11回	情報倫理の存在と目的(「法」を通して)		
第12回	情報セキュリティと情報倫理		
第13回	情報セキュリティの基礎		
第14回	物理的セキュリティの限界		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
レジメ、プリント配布			
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
情報倫理概論 現代の倫理的問題	私立大学情報教育協会 長友 敬一	中西出版	
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
定期試験60% レポート10% 平常点(カーボン・コピー・ノート等)30% 特に毎時間毎のカーボンコピーノートが大切 到達目標・・・情報社会の解明			

ナンバリング (Numbering)						
1BIB-6110-22E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
統計学入門	219～	2年生・前期	2単位	選択	大浦 洋子	
履修の前提条件	ニュースなど報じられた社会情勢のうち、データが示された内容を把握しておくこと。					
授業概要 (Course Outline)						
統計データには、アンケートや計測などで得られた1次データ(生データともいう)と、それらを何らかの目的で第三者がまとめた2次データがある。						
本講義では、2次データの読み取りや、目的に沿ったデータのまとめ方を学ぶ。また、OECD や e-stat などの統計ポータルサイトから2次データを取得し、その視覚化と分析を行う。また、統計データの視覚化と基本統計量との関連性ならびに数値データ分析や多変量データなどの基礎も学ぶ。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					○
	数量的スキル Mathematics					○
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					
	生涯学習力 Lifelong Learning					
到達目標 (Objectives)						
データの視覚化や基本統計量などを踏まえて、データの特性や関連性を理解し、統計データを通じた社会の見方や、エビデンス(証拠や根拠)を基にした議論の素養を身につけることを目標とします。						
事前学習の内容(時間)	習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(各回ごとに2.0h)					
事後学習の内容(時間)	習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(各回ごとに2.0h)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
講義内容に関するミニレポートを講義の終わりにほぼ毎回実施します。また、実際のデータを用いて、基本統計量の求め方、統計グラフによる情報の把握などの演習も行いますので、積極的に取り組む様に心掛けてください。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室(271)を訪ねてください。オフィスアワーの時間は、掲示を参照して下さい。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
講義資料を共有フォルダを介して配布するので、毎回PCを持参することが望ましい。また、KIISNW にアクセスできるように環境を整えておいて下さい。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	統計とは		
第2回	データの種類1	1次・2次データ, 量的・質的データ	
第3回	データの計数と表現1	集計表と各種グラフ	
第4回	データの計数と表現2	度数分布表とヒストグラム	
第5回	データの計数と表現3	演習:ヒストグラム	
第6回	データの基本統計量1	代表値と散布度	
第7回	データの基本統計量2	その他の統計量	
第8回	データの基本統計量3	演習:基本統計量	
第9回	データの取得1	統計ポータルサイトと情報の読み方 OECD, e-stat,...	
第10回	データの取得2	演習:統計ポータルサイトの利用	
第11回	データ分析1	RESASによるデータ分析の事例	
第12回	データ分析2	RESASによるデータ取得と分析結果の使い方	
第13回	データ分析3	演習:RESASの利用	
第14回	データの種類2	多種類のデータとその組み合わせ	
第15回	まとめ		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
プレステップ統計学I 記述統計学 (プレステップシリーズ14)	稲葉 由之 (著)	弘文堂	13: 978-4335000843
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
①統計データはためになる ②地理B 統計・データの読み方が面白いほどわかる本	① 本川 裕 ② 伊藤 彰芳	① 技術評論社 ② KADOKAWA	① ISBN978-4-7741-5293-6 ② ISBN978-4-04-601537-2
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
平常点(確認プリント、提出物など)、期末試験の総合評価			

ナンバリング (Numbering)						
1BMN-5360-22E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
経営情報論 I	共通	2年生・前期	2単位	選択	岸川 洋	○
履修の前提条件	「経営学総論 I」「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー(情報処理入門)」を履修し、ストラテジー分野について理解していることが望ましい。					
授業概要 (Course Outline)						
電気通信事業会社で、社内システム開発部門、システム営業部門(公共・金融)の業務経験がある教員が、業種毎(製造業、流通業、金融業)のシステム構成や具体的システム事例(家電メーカ、コンビニエンスストア、銀行等)について解説する。						
ITパスポート試験(ストラテジー分野)から出題した小テストを毎回実施する。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					
	問題解決力 Problem Solving					
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
	生涯学習力 Lifelong Learning					
到達目標 (Objectives)						
業種毎の経営情報システムの仕組み、特徴について正しく理解し、説明が出来るようになる。						
事前学習の内容(時間)	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。授業計画の欄を参照のこと。(各回ごとに2時間)					
事後学習の内容(時間)	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(各回ごとに2時間)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。意見、感想なども記入してください。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
連絡方法: 事務局へ伝えてください。 オフィスアワー: 授業日の休憩時間等に対応いたします。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
外部試験: ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。 学修の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、次回授業までに共有フォルダへ提出すること。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	オリエンテーション(授業の概要・受講上の諸注意)		
第2回	経営情報システムの概要(経営情報システムの構成、体系について学習する)		
第3回	製造業情報システム(製造業における情報システムの構成について学習する)		
第4回	製造業情報システム(生産計画、在庫管理、資材調達、需要予測、顧客管理等について学習する)		
第5回	製造業情報システム(家電メーカー等を事例にして具体的に学習する)		
第6回	流通業情報システム(流通業における情報システムの構成について学習する)		
第7回	流通業情報システム(販売管理、在庫管理、受発注、物流・配送、売れ筋分析等について学習する)		
第8回	流通業情報システム(コンビニエンスストア等を事例にして具体的に学習する)		
第9回	金融業情報システム(金融業情報システムの発展について学習する)		
第10回	金融業情報システム(金融業における情報システムの構成について学習する)		
第11回	金融業情報システム(勘定系、営業店、ファームバンキング、リスク管理等について学習する)		
第12回	金融業情報システム(銀行等を事例にして具体的に学習する)		
第13回	ワークフロー管理システム(企業内でのグループ業務を支えるシステムについて学習する)		
第14回	テレワーク(企業内での遠隔業務を支えるシステムについて学習する)		
第15回	TCO(情報システムにかかる費用を把握し、削減対策について学習する)		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
情報・技術経営シリーズ10 ビジネス情報システム	薦田憲久、水野浩孝、 赤津雅晴	コロナ社	4339026301
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書 経営情報システム 第3版	武藤明則 島田達己、高原康彦	同文館出版 日科技連	9784495384111 9784817192141
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
成績評価の方法: 平常点(60%)、定期試験(40%)。平常点は授業への参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポート提出状況で総合的に判断する。			
成績評価の基準: 利用部門での情報リーダーに必要な、情報系システムの企画・開発に関する知識がある。			

ナンバリング (Numbering)									
1EDN-6490-12E									
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選		授業担当者 Instructor	実務 経験		
マーケティング論	219～ ～218	1年生・前期	2単位	経営 必 選択	NW 選	秋吉 浩志			
履修の前提条件	経営やマーケティングに興味をもつ学生は積極的に履修をすすめる。本学の経営情報学に関する1分野としてとても大事な科目のひとつである。								
授業概要 (Course Outline)									
マーケティングの基礎理論を包括的に講義する。毎回講義ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション方式で授業を行う。それに合わせて、適宜プリントも配布するが、その回限定のプリントなので、再配布することはない。よって、必ず出席すること。また、最新のマーケティング&消費者行動に関するテキストを紹介するので、必ず読むことをすすめる。									
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)									
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture								
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature								○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening								○
	数量的スキル Mathematics								○
	情報リテラシー Information Literacy								○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking								○
	問題解決力 Problem Solving								○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy								
	自己管理能力 Self-management								○
	チームワーク Teamwork								○
	リーダーシップ Leadership								
	倫理観 Ethical Sense								○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility								○
	生涯学習力 Lifelong Learning								○
到達目標 (Objectives)									
マーケティング論の基礎的な講義である。後期または2年次以降の科目受講に向けての基礎科目であるので、この授業でマーケティングの基礎理論を学んで、2年次以降のとくにマーケティング及び流通関連科目、ビジネス関連科目を理解する力を養うことが目標である。									
事前学習の内容(時間)	基本的にプリントを配布し、テキストも使用するが、下記の参考書ならびに参考資料を事前に読むことをすすめる。各回ごとに予習時間2h以上								
事後学習の内容(時間)	毎回、プリントを基本的に配布、テキストも使用するが、板書、ならびにパワーポイントで説明した重要点においては、再度見直して復習することを求める。各回ごとに復習時間2h以上								
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)									
①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。									
②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。									
③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。									
④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など									
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)									
基本的に研究室(2号館5階555研究室)にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。研究室訪問の際、メール; akiyoshi7227@gmail.comにメール連絡をしておくことを薦める。									
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について									
この科目は経営学検定試験の初級「マーケティング」部分の基礎内容にもふれている。また販売士(リテールマーケティング)受験希望者は、必ず履修することを薦める。									
学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、4月28日までに秋吉までメール(akiyoshi7227@gmail.com)で提出してください。									

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	マーケティングとは何か&ガイダンス(社会のなかでのマーケティングの役割について)		
第2回	アメリカと日本のマーケティングの歴史と定義の変遷について		
第3回	マーケティングミックス(マーケティングの4Pとターゲット層を考える)		
第4回	製品戦略①(メーカーの製品づくりと製品コンセプトを考える)		
第5回	製品戦略②(市場のコモディティ化と現代の製品づくりの変化を考える)		
第6回	価格戦略①(価格決定について損益分岐点法など価格決定のプロセスについて)		
第7回	価格戦略②(現代の価格決定法を考える:サブスクリプションなど新たな動きについて)		
第8回	流通(チャネル)戦略①(商業の発展と流通の役割)		
第9回	流通(チャネル)戦略②(流通システム、流通チャネル、取引数削減の原理など、流通の問題を考える)		
第10回	プロモーション戦略①(広義のプロモーション戦略を考える)		
第11回	プロモーション戦略②(広告、イベントなど狭義のプロモーションについて考える)		
第12回	サービスマーケティング(サービスとはなにか、サービスの諸特徴について)		
第13回	電子商取引とe-マーケティング(電子商取引の劇的な発展に伴う問題点を考える)		
第14回	IT&ICTとマーケティング(ITやIOTの発展によるマーケティング情報システムの諸問題を考える)		
第15回	現代におけるマーケティング概念の劇的な変化と進展について&まとめ		
第16回	定期試験		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
毎回授業プリントを配布、また、ミニツカードを配り、理解度をチェックする			
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
マーケティング基礎読本増補改訂版(日経BPムック)	日経デジタルマーケティング(編集)	ムック	978-4822235598
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は出席登録以外では一切禁止し、使用した場合には科目受講失格(0点)にする。基本的に座席指定を行う。			

ナンバリング (Numbering)						
1EMN-5670-12E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
消費者行動論	共通	1年生・後期	2単位	選択	秋吉 浩志	
履修の前提条件	経営やマーケティング、消費者行動、ブランド論に興味をもつ学生は積極的に履修をすすめる。経営に関する1分野としてとても大切な科目である。					
授業概要 (Course Outline)						
消費者行動の基礎理論を包括的に講義する。毎回講義ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション方式で授業を行う。また、講義ではオリジナルプリントを使用するが、プリントの内容について授業中質問をするので、質問に答えられるよう集中しておくこと。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					○
	数量的スキル Mathematics					○
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					○
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					○
	倫理観 Ethical Sense					○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
	生涯学習力 Lifelong Learning					○
到達目標 (Objectives)						
景気の動向、経済政策、企業経営、文化・ライフスタイル、ファッション、さらには国際化 & グローバル化にいたるまでさまざまな動向を探り、世の中の消費者行動を分析する力を養う。小売店のバイヤー、Webビジネス関係企業、マーケティング関係の企業、マスコミ関係の就職等を望んでいる学生は履修を勧める。						
事前学習の内容(時間)	後期受講科目なので、前期科目の「マーケティング論」の復習をしておくこと、「マーケティング論」は企業サイドから見た視点なので、逆に「消費者の視点」で考えておくことを求める。なお、各回ごとに2.0hの学習時間を設定している。					
事後学習の内容(時間)	毎回、プリントを基本的に配布するが、板書、ならびにパワーポイントで説明した重要点においては、再度見直して復習することを求める。なお、各回ごとに2.0hの学習時間を設定している。					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。 ②動画、プリント以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。 ③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。 ④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
基本的に研究室にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。 研究室訪問の際、メール: akiyoshi7227@gmail.comにメール連絡をしておくことを薦める。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
この科目は経営学検定試験の初級「マーケティング」部分の基礎内容にもふれている。また販売士(リテールマーケティング)受験希望者は、必ず履修することを薦める。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、4月28日までに秋吉までメール(akiyoshi7227@gmail.com)で提出してください。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	消費者行動論とはなにか&ガイダンス		
第2回	消費者行動とマーケティング:身近な個人個人の行動を考えよう		
第3回	消費社会とはなにか①:消費社会の誕生と発展について考えよう		
第4回	消費社会とはなにか②:日本での消費社会の発展を歴史を追って考えよう		
第5回	消費者行動論の基礎理論①:消費者行動を把握するための4つの理論について考えよう		
第6回	消費者行動論の基礎理論②BMEモデル、刺激反応モデル、S-O-R理論について考えよう		
第7回	消費者行動論の基礎理論③脳科学的分析方法など最新の消費者行動理論を考える		
第8回	ライフコース、ライフスタイル、ライフサイクルの3類型について考える		
第9回	国際的消費者行動論①「国際的消費者行動と文化について」		
第10回	国際的消費者行動論②「現地適応化か、国際標準化か」		
第11回	東アジアの文化と消費者行動論①「日本・韓国・中国の基礎文化比較と消費者行動」		
第12回	消費者行動とブランド形成について①「ブランドとはなにか」		
第13回	消費者行動とブランド形成について②「ブランド形成に必要なものはなにか」		
第14回	消費者行動とインターネットにおける相互性について「ネット上の消費者行動」		
第15回	消費者行動とライフ設計、そして「これからの消費者行動分析について」		
第16回	定期試験		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
毎週参考プリントを配布、ミニッツカードも配布			
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
消費者行動論 消費者・コミュニケーション戦略	青木幸弘他 田中洋他	有斐閣アルマ 有斐閣アルマ	978-4641124639 978-4641122741
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は出席登録時間以外は一切禁止し、使用した場合には科目受講失格(0点)にする。基本的に座席指定を行う。			

ナンバリング (Numbering)						
1EMN-6470-22E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
マーケティング・リサーチ	219～	2年生・前期	2単位	選択	坂本 徹	
	～218 経営情報学科	3・4年生・前期				
履修の前提条件	コンピュータを大学のネットワークに接続できる状態にしておいて下さい。パスワードの有効期限は6か月ですから、有効期限のチェックや更新、再発行の手続きなど意外に時間がかかります。					
授業概要 (Course Outline)						
<p>マーケティングは、顧客の集まりである市場の創設、潜在的な顧客の取り込み、人々の関心を自社製品に振り向かせる試み等にかかわる企業活動である。そのためにはどんな製品が求められているのか、納得できる価格帯は？有効な販売方法は？どのような流通経路でお客様に商品をお届けすれば良いのかといった事柄についての調査研究(リサーチ)が必要となる。この調査研究には①分析方法、②統計、③コンピューターに関する知識と技術の3つが同時に必要です。この講義ではこの3点について勉強して行きましょう。実際のリサーチにはこれに加えて調査票の設計と作成、調査の実施と集計が必要ですが、これには経験が必要で、本講義はその基礎となるものです。</p>						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					○
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
	生涯学習力 Lifelong Learning					○
到達目標 (Objectives)						
<p>「家計調査年報」にアクセスして、ある品目の消費実態を観察し簡単な分析レポートを書くことができるようになること。その際に意識的に時系列とクロスセクションの双方の視点から対象にアプローチする姿勢を習得する事。</p>						
事前学習の内容(時間)	1年次「情報リテラシー演習 I・II」を、特にExcellについて復習して下さい。(各回ごとに2時間)					
事後学習の内容(時間)	授業中に提示した事例は、必ず実データで実行し、保存しておいて下さい。(各回ごとに2時間)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
<p>授業ではコンピュータの操作を通じて、データベースへのアクセス、データの取り込み、データの編集と分析を行います。これまでに修得したコンピュータの知識・技術を総動員して、又は思い出しながら自らの経験として積み上げて行くこと。</p>						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
<p>授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目(12:50～16:00)をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。</p>						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
<p>統計検定、マイクロソフトオフィス検定、販売士などの外部試験を受験した者は成績評価の対象とします。ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p>						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	マーケティング・リサーチとは何か		
第2回	J.M.A. A.M.A.の定義		
第3回	マーケティングの歴史		
第4回	企業のマーケティング		
第5回	コンピューターについて		
第6回	kiis networkの概要		
第7回	表計算ソフトウェアの概要		
第8回	セカンダリーデータ(2次資料)とその利用		
第9回	日本の5大センサス		
第10回	国勢調査とマーケティング・リサーチ		
第11回	その他の重要な2次資料		
第12回	現状分析例(家計調査年報を利用した時系列分析)		
第13回	現状分析例(家計調査年報を利用した所得階層別分析)		
第14回	現状分析例(家計調査年報を利用した世帯人員数と年齢別分析)		
第15回	現状分析例(家計調査年報を利用した都道府県別分析)		
第16回	定期試験		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
マーケティング・リサーチ — マーケティング、コンピューター、リサーチ —	坂本 徹	東筑印刷	私家版 授業中に配布
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
マーケティング・リサーチの実際	近藤光雄・小田宜夫	日経文庫	ISBN978-4-532-11009-3
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
評価 = 中間レポート + 定期試験評価 4 : 6			

ナンバリング (Numbering)						
1AMN-5400-22E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
経営分析	219～	2年生・前期	2単位	選択	春日 克則	
	～218	3・4年生・前期				
履修の前提条件	簿記や会計学の基本的な知識を習得していることが望ましいが、企業の健康診断(経営分析)に興味を持つことが必要である。					
授業概要 (Course Outline)						
企業が公表する財務諸表は企業情報の宝庫である。財務諸表等から得られる情報を利用した分析理論と手法を学習し、企業の経営成績・財政状態・キャッシュフローの状況を判断できる力を養う。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					○
	数量的スキル Mathematics					○
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
市民としての社会的責任 Social Responsibility						
生涯学習力 Lifelong Learning					○	
到達目標 (Objectives)						
授業では、企業が作成した貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書(財務諸表)を使用して、様々な分析(診断)を行っていく。この過程で、収益性・安全性・成長性などの各種分析手法を身につける。さらに、この計算結果に基づいて企業経営の問題点を指摘し、これを解決するための提案力を養うことができる。						
事前学習の内容(時間)	テキストの関連するページを学習し分からない点が目覚めるようにする(各回2時間)。					
事後学習の内容(時間)	練習問題を毎回提出・返却するので、指摘された課題に取り組む必要がある(各回2時間)。					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む。その成果を、授業の最後に提出してもらい、翌週添削して返却する。課題を提出する際には、授業中に疑問に思ったことや、わからなかったことを記入する。また、返却された課題には、私のコメントが書いてあるのでお互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
連絡、問い合わせ、相談等は研究室にて随時受け付けます。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
外部試験: 大阪商工会議所主催のビジネス会計検定試験3級の内容と授業内容が関連している。 学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に説明する。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	オリエンテーションと会計情報の利用法について		
第2回	貸借対照表①－意義と様式－		
第3回	貸借対照表②－資産の内容と表示－		
第4回	貸借対照表③－負債と純資産－		
第5回	損益計算書①－意義と様式－		
第6回	損益計算書②－収益・費用・利益－		
第7回	キャッシュ・フロー計算書①－意義と様式－		
第8回	キャッシュ・フロー計算書②－読み方－		
第9回	中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)		
第10回	財務諸表分析の基本体系－比率分析と実数分析－		
第11回	成長性の分析－企業の伸びや推移を知る－		
第12回	安全性の分析－企業が支払い不能によって倒産しないために－		
第13回	収益性の分析－様々な項目と収益とを比較する－		
第14回	企業価値分析－キャッシュフローによる分析－		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
『ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級[第4版]』	大阪商工会議所	中央経済社	978-4-502-30181-0
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
必要に応じて指示します。			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。			

ナンバリング (Numbering)						
1EDN-6372-22E						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
ビジネスプログラミング	219～ 情報ネットワーク学 ～218	2年生・前期	2単位	選択	橋爪 善光	
履修の前提条件	プログラミング入門またはプログラミング初歩IIを合格していること					
授業概要 (Course Outline)						
Excelを高度に利用するためにVBA(Visual Basic for Application)を使用したマクロのプログラミングを学習する。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					
	生涯学習力 Lifelong Learning					
到達目標 (Objectives)						
Excelのマクロの記録、VBAによるExcelデータに対するプログラミングの学習によってExcelの利用方法が広がり、自分独自の機能を付け加えて、今後の学習や仕事で広範囲に活用することができるようになる。						
事前学習の内容(時間)	前週授業時に行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2.0h)					
事後学習の内容(時間)	授業で行った例題を自力で解いてください。(2.0h)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	ガイダンス、自動記録によるマクロの作成と実行		
第2回	簡単なマクロの作成		
第3回	変数の使い方と計算		
第4回	セルの選択とコピー		
第5回	条件による分岐		
第6回	複数の条件による分岐 (If...Then...Else...End Ifステートメント)		
第7回	複数の条件による分岐 (Select Caseステートメント)		
第8回	処理の繰り返し (For...Nextステートメント)		
第9回	二重の繰り返し		
第10回	処理の繰り返し (Do While...Loop)		
第11回	イベントプロシージャとSubプロシージャ		
第12回	一次元配列		
第13回	二次元配列		
第14回	ユーザーフォームの作成		
第15回	総合演習と復習		
第16回	定期試験		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
学生のためのExcel VBA 第2版	若山芳三郎	東京電機大学出版局	978-4-501-55450-7
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
必要に応じて指示します。			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
毎回のプログラミング課題50%、定期試験50%			

ナンバリング (Numbering)						
1EMN-5370-U2ET						
科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
経営情報論Ⅱ	219～ 経営情報学 科	2・3年生・後期	2単位	選択	岸川 洋	○
経営情報論Ⅱ (教職関連科目 必 高等学校 情報)	～218	2年生・後期				
履修の前提条件	「経営学総論Ⅰ」「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー(情報処理入門)」を履修し、ストラテジー分野について理解していることが望ましい。					
授業概要 (Course Outline)						
電気通信事業会社で、社内システム開発部門、システム営業部門(公共・金融)の業務経験がある教員が、経営環境の変化や情報技術の進展により、経営情報システムがどのように発展してきたかを解説する。 ITパスポート試験(ストラテジー分野)から出題した小テストを毎回実施する。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					○
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					
態度・志向性の観点 Personal Qualities	問題解決力 Problem Solving					○
	建学の精神 University Founding Philosophy					
	自己管理能力 Self-management					
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
倫理観 Ethical Sense					○	
市民としての社会的責任 Social Responsibility						
生涯学習力 Lifelong Learning						
到達目標 (Objectives)						
経営情報システムの発展過程を理解し、各経営情報システムの考え方について説明できる。						
事前学習の内容(時間)	テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。授業計画の欄を参照のこと。(各回ごとに2時間)					
事後学習の内容(時間)	毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(各回ごとに2時間)					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。意見、感想なども記入してください。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
連絡方法:事務室へ伝えてください。 オフィスアワー:授業日の休憩時間等に対応いたします。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
外部試験:ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。 学修の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、次回授業までに共有フォルダへ提出すること。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	オリエンテーション(授業の概要・受講上の諸注意)		
第2回	経営情報システムの発展過程(経営情報システムの変遷について学習する)		
第3回	MIS(経営情報システムの考え方について学習する)		
第4回	OA(オフィスオートメーションの導入について学習する)		
第5回	EDPSとDSS(勘定系システムと情報系システムの違いについて学習する)		
第6回	SIS(戦略的情報システムの考え方について学習する)		
第7回	BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリングの考え方について学習する)		
第8回	ERP(統合業務パッケージの考え方について学習する)		
第9回	SCM(サプライチェーンマネジメントの考え方について学習する)		
第10回	CRM(顧客関係管理の考え方について学習する)		
第11回	POS(販売時点管理の考え方について学習する)		
第12回	EC(電子商取引の利点や課題について学習する)		
第13回	EUC(エンドユーザコンピューティングの考え方について学習する)		
第14回	セキュリティとリスク管理(情報システムの構築、運用の際に認識すべきことについて学習する)		
第15回	プライバシーと情報倫理(情報システムの構築、運用の際に認識すべきことについて学習する)		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
情報・技術経営シリーズ10 ビジネス情報システム	薦田憲久、水野浩孝、 赤津雅晴	コロナ社	4339026301
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書 経営情報システム 第3版	武藤明則 島田達己、高原康彦	同文館出版 日科技連	9784495384111 9784817192141
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
成績評価の方法: 平常点(60%)、定期試験(40%)。平常点は授業への参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポート提出状況で総合的に判断する。			
成績評価の基準: 利用部門での情報リーダーに必要な、情報系システムの企画・開発に関する知識がある。			

経営情報学科 令和元（2019）年度履修系統図（カリキュラムマップ）

必修科目43単位を含めて124単位以上修得することを卒業要件とする。

◎：必修科目 ○：選択必修 ※：留学生科目

*KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラムリテラシーレベル科目（必修：赤文字 選択：青文字）

大分類			基礎総合科目（必修15単位を含み40単位以上）					
中分類 総合教養 必修2単位・選択必修1単位を含み12単位以上			中分類 語学 必修2単位を含み6単位以上			中分類 実践力養成・キャリア開発 必修10単位を含み12単位以上		
小分類			小分類			小分類		
＜人文科学＞			＜英語＞			＜実践スキル＞		
科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号
◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS	◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS
宗教学	1後	1GGN-5660-12E	英会話 Basic I	1前	1GLN-5170-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 I	1前	1GCN-5580-12C
心理学	1前	1GGN-5850-12E	英会話 Basic II	1後	1GLN-5180-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 II	1後	1GCN-5590-12C
文学	1前	1GGN-6400-12E	英会話Advanced I	2前	1GLN-5150-22ES	文章表現 I	2前	1GCN-6410-22E
日本文化論	1後	1GGN-6260-12E	英会話Advanced II	2後	1GLN-5160-22ES	文章表現 II	2後	1GCN-6420-22E
＜社会科学＞			＜中国語＞			特別講義「実践力養成」		
法学	1前	1GGN-6450-12E	初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES	1～4	1SCN-6170-YYE	
日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET	中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES	＜キャリア開発＞		
社会学	1後	1GGN-5650-12E	＜韓国語＞			◎キャリアデザイン入門 I		
政治学	1前	1GGN-5890-12E	初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES	2前	1GCN-5310-22C	
経済学	1前	1GGN-5420-12E	中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES	◎キャリアデザイン入門 II	2後	1GCN-5320-22C
※日本事情	1前	1GGN-6250-12E	＜日本語＞			キャリアデザイン I	3前	1GCN-5290-32E
＜自然科学＞			※日本語 I	1前	1GLN-6200-12E	キャリアデザイン II	3後	1GCN-5300-32E
基礎数学	1前	1GGB-5270-12E	※日本語 II	1後	1GLN-6210-12E	特別講義「キャリア」		
地球と環境	1後	1GGN-5970-12E	※日本語 III	2前	1GLN-6220-22E	1～4	1SCN-6140-YYE	
＜スポーツ科学＞			※日本語 IV	2後	1GLN-6230-22E	特別講義「語学」		
○スポーツ実技 I	1前	1GGN-5870-21DT	特別講義「語学」			1～4	1SLN-6160-YYE	
○スポーツ実技 II	1後	1GGN-5880-21DT						
ウェルネス理論	2前	1GGN-5140-22E						

大分類 専門教育科目 (必修28単位を含み84単位以上)

中分類	専門基礎
必修10単位を含み20単位以上	

小分類

<経営・会計>

科目名	授業を行う年次	番号
◎経営学総論Ⅰ	1前	1BMB-5331-12C
会計学入門	1前	1BMB-5220-12E
◎初級簿記	1前	1BMB-5830-12C
◎簿記演習	1後	1BMB-6460-12C
◎情報倫理	1後	1BMN-5790-12CS
マネジメント科学	2前	1BMN-6510-22ET
ビジネス実務	2前	1BMB-6300-22E
民事法	2前	1BMN-6540-22E
経営情報論Ⅰ	2前	1BMN-5360-22E

<情報>

情報学入門	1前	1BIN-5690-12ES
情報数学Ⅰ	1後	1BIB-5710-12E
情報ネットワーク入門	1後	1BIN-5770-12ET
ビジネス活用演習	1後	1BIB-6310-14E
統計学入門	2前	1BIB-6110-22E
◎情報セキュリティ	3・4前	1BIN-5730-22CS
情報システムの開発と管理	3・4前	1BIN-5700-22ET
マルチメディア論	3・4前	1BIN-6530-22ET

中分類	専門発展
必修6単位を含み14単位以上	

小分類

<経営・会計>

科目名	授業を行う年次	番号
◎マーケティング論	1前	1AMN-6490-12C
ベンチャービジネス入門	1後	1AMN-6440-12E
◎経営学総論Ⅱ	1後	1AMB-5332-12C
企業金融	2前	1AMN-5260-22E
コース論Ⅰ	2前	1AMN-5560-22E
日本経営史	2前	1AMB-6190-22E
経営分析	2前	1AMN-5400-22E
◎会計学	2後	1AMN-5200-22C
統計学	2後	1AMB-6091-22E
経営組織論	2後	1AMN-5390-22E
組織心理学	3・4前	1AMN-5950-22E
知的所有権	3・4前	1AMN-5980-22ET
労務管理論	3・4前	1AMN-6570-22ET
経営思想	3・4前	1AMA-5350-22E

<情報>

計算機システム論	1後	1AIN-5430-12ES
情報テクノロジー	1・2前	1AIN-5740-X2ET
アルゴリズムとデータ構造	2前	1AIN-5120-22ET
データベース論	2前	1AIN-6060-22ET
プログラミング入門	2・3前	1AIN-6381-U2ET
初級プログラミング実習	2・3後	1AIN-6382-U2ET
マネジメントゲーム	2・3後	1AIN-6520-U2ES
プログラミング論	3・4前	1AIN-6383-Z2ES
中級プログラミング実習	3・4後	1AIN-6384-Z2ES
コンピュータグラフィックス論	3・4前	1AIN-5610-22ET
計測・制御論	3・4後	1AIN-5440-22ET

中分類	専門応用
24単位以上	

小分類

<会計>

科目名	授業を行う年次	番号
中級簿記演習Ⅰ	2前	1EAN-6020-22E
中級簿記演習Ⅱ	2後	1EAN-6030-22E
原価計算論Ⅰ	2前	1EAN-5480-22E
原価計算論Ⅱ	2後	1EAN-5490-22E
財務会計論	2前	1EAN-5620-22E
財務管理	2後	1EAN-5630-22E
会社法	2前	1EAN-5230-22E
監査論	2後	1EAN-5240-22E
コンピュータ会計	2前	1EAN-5600-22E
税務会計論	3・4前	1EAN-5910-22E
税法学	3・4後	1EAN-5900-22E

<経営>

経営戦略論	1前	1EMN-5380-12E
消費者行動論	1後	1EMN-5670-12E
マーケティング・リサーチ	2前	1EMN-6470-22E
Webマーケティング論	2後	1EMN-5070-22E
SNS活用と問題解決	2前	1EMN-5010-22E
コース論Ⅱ	2後	1EMN-5570-22E
経営情報論Ⅱ	2・3後	1EMN-5370-U2ET
ベンチャー企業論	2・3後	1EMN-6430-U2E
中小企業論	2・3前	1EMN-6040-U2E
ビジネスプランニング	3・4後	1EMN-6320-Z2E
事業継承論	3・4後	1EMN-5640-Z2E
計量経済分析	3・4後	1EMN-5450-Z2E

<国際ビジネス>

国際経営論	2後	1EGN-5510-22E
国際情報分析	2後	1EGN-5530-22E
ビジネス英語Ⅰ	2前	1EGN-6280-22E
ビジネス英語Ⅱ	2後	1EGN-6290-22E
TOEICⅠ	2前	1EGN-5030-22ES
TOEICⅡ	2後	1EGN-5040-22ES
国際地域文化論	2前	1EGN-5550-22E
国際経済論	3・4前	1EGA-5520-22E
国際政治学	3・4前	1EGA-5540-22E

* 情報ネットワーク学科科目履修 (他学科履修)

ビジネスプログラミング	2前	1EDN-6372-22E
-------------	----	---------------

中分類 演習

小分類

<ゼミナール基礎>必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
基礎ゼミ	2	1BSB-5280-24C

<ゼミナール専門>3年次、4年次それぞれ必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
専門ゼミⅠ	3	1ASA-5280-34C
専門ゼミⅡ	4	1ESA-5280-44C

中分類 特別講義

小分類

<特別講義専門>

科目名	授業を行う年次	番号
特別講義「経営」	1~4	1SMN-6150-YYE
特別講義「会計」	1~4	1SAN-6130-YYE
特別講義「情報」	1~4	1SIN-6180-YYE

情報ネットワーク学科 令和元（2019）年度履修系統図（カリキュラムマップ）

必修科目43単位を含めて124単位以上修得することを卒業要件とする。

◎：必修科目 ○：選択必修 ※：留学生科目

* KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラムリテラシーレベル科目（必修：赤文字 選択：青文字）

大分類			基礎総合科目（必修15単位を含み40単位以上）			大分類			基礎総合科目（必修15単位を含み40単位以上）			大分類			基礎総合科目（必修15単位を含み40単位以上）		
中分類 総合教養			中分類 語学			中分類 実践力養成・キャリア開発			中分類 総合教養			中分類 語学			中分類 実践力養成・キャリア開発		
必修2単位・選択必修1単位を含み12単位以上			必修2単位を含み6単位以上			必修10単位を含み12単位以上			必修2単位・選択必修1単位を含み12単位以上			必修2単位を含み6単位以上			必修10単位を含み12単位以上		
小分類			小分類			小分類			小分類			小分類			小分類		
＜人文科学＞			＜英語＞			＜実践スキル＞			＜人文科学＞			＜英語＞			＜実践スキル＞		
科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号
◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS	◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS	◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C	◎コミュニケーションと自己発見Ⅰ	1前	1GCN-5580-12C	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS
宗教学	1後	1GGN-5660-12E	英会話 BasicⅠ	1前	1GLN-5170-12ES	◎コミュニケーションと自己発見Ⅱ	1後	1GCN-5590-12C	心理学	1前	1GGN-5850-12E	◎コミュニケーションと自己発見Ⅱ	1後	1GCN-5590-12C	英会話 BasicⅡ	1後	1GLN-5180-12ES
心理学	1前	1GGN-5850-12E	英会話 AdvancedⅠ	2前	1GLN-5150-22ES	文章表現Ⅰ	2前	1GCN-6410-22E	文学	1前	1GGN-6400-12E	文章表現Ⅱ	2後	1GCN-6420-22E	英会話 AdvancedⅡ	2後	1GLN-5160-22ES
文学	1前	1GGN-6400-12E	英会話 AdvancedⅡ	2後	1GLN-5160-22ES	文章表現Ⅱ	2後	1GCN-6420-22E	日本文化論	1後	1GGN-6260-12E	特別講義「実践力養成」	1～4	1SCN-6170-YYE	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS
日本文化論	1後	1GGN-6260-12E	＜中国語＞			＜キャリア開発＞			◎基礎数学	1前	1GGB-5270-12E	◎キャリアデザイン入門Ⅰ	2前	1GCN-5310-22C	初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES
＜社会科学＞			初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES	◎キャリアデザイン入門Ⅱ	2後	1GCN-5320-22C	基礎数学	1前	1GGB-5270-12E	◎キャリアデザインⅠ	3前	1GCN-5290-32E	中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES
法学	1前	1GGN-6450-12E	中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES	キャリアデザインⅠ	3前	1GCN-5290-32E	地球と環境	1後	1GGN-5970-12E	キャリアデザインⅡ	3後	1GCN-5300-32E	＜韓国語＞		
日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET	＜日本語＞			特別講義「キャリア」	1～4	1SCN-6140-YYE	スポーツ実技Ⅰ	1前	1GGN-5870-21DT	◎キャリアデザインⅡ	3後	1GCN-5300-32E	初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES
社会学	1後	1GGN-5650-12E	※日本語Ⅰ	1前	1GLN-6200-12E	◎キャリアデザインⅡ	3後	1GCN-5300-32E	スポーツ実技Ⅱ	1後	1GGN-5880-21DT	※日本語Ⅱ	1後	1GLN-6210-12E	中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES
政治学	1前	1GGN-5890-12E	※日本語Ⅱ	1後	1GLN-6210-12E	特別講義「キャリア」	1～4	1SCN-6140-YYE	ウェルネス理論	2前	1GGN-5140-22E	※日本語Ⅲ	2前	1GLN-6220-22E	＜韓国語＞		
経済学	1前	1GGN-5420-12E	※日本語Ⅲ	2前	1GLN-6220-22E	特別講義「キャリア」	1～4	1SCN-6140-YYE	ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E	※日本語Ⅳ	2後	1GLN-6230-22E	特別講義「語学」	1～4	1SLN-6160-YYE
※日本事情	1前	1GGN-6250-12E	※日本語Ⅳ	2後	1GLN-6230-22E												
＜自然科学＞			特別講義「語学」	1～4	1SLN-6160-YYE												
基礎数学	1前	1GGB-5270-12E															
地球と環境	1後	1GGN-5970-12E															
＜スポーツ科学＞																	
○スポーツ実技Ⅰ	1前	1GGN-5870-21DT															
○スポーツ実技Ⅱ	1後	1GGN-5880-21DT															
ウェルネス理論	2前	1GGN-5140-22E															
ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E															

大分類 専門教育科目 (必修28単位を含み84単位以上)

中分類	専門基礎
必修10単位を含み20単位以上	

小分類

<情報>

科目名	授業を行う年次	番号
情報学入門	1前	1BMB-5331-12C
情報数学Ⅰ	1後	1BMB-5220-12E
情報ネットワーク入門	1後	1BMB-5830-12C
ビジネスソフト活用演習	1後	1BMB-6460-12C
統計学入門	2前	1BIB-6110-22E
◎情報セキュリティ	3・4前	1BIN-5730-Z2CS
情報システムの開発と管理	3・4前	1BIN-5700-Z2ET
マルチメディア論	3・4前	1BIN-6530-Z2ET

<経営・会計>

◎経営学総論Ⅰ	1前	1BMB-5331-12C
会計学入門	1前	1BMB-5220-12E
◎初級簿記	1前	1BMB-5830-12C
◎簿記演習	1後	1BMB-6460-12C
◎情報倫理	1後	1BMN-5790-12CS
マネジメント科学	2前	1BMN-6510-22ET
ビジネス実務	2前	1BMB-6300-22E
民法	2前	1BMN-6540-22E
経営情報論Ⅰ	2前	1BMN-5360-22E



中分類	専門発展
必修6単位を含み14単位以上	

小分類

<情報>

科目名	授業を行う年次	番号
計算機システム論	1後	1AIN-5430-12ES
アルゴリズムとデータ構造	2前	1AIN-5120-22ET
情報数学Ⅱ	2前	1AIB-5720-22E
データベース論	2前	1AIN-6060-22ET
オペレーティングシステム論	2後	1AIN-5190-22E
計測・制御論	3・4後	1AIN-5440-Z2ET
モバイルネットワーク	3・4前	1AIN-6550-Z2ES
◎プログラミング初歩Ⅰ	1前	1AIB-6360-12C
プログラミング初歩Ⅱ	1後	1AIB-6371-12E
プログラミング実践Ⅰ	2前	1AIN-6341-24E
プログラミング実践Ⅱ	2後	1AIN-6342-24E
◎情報テクノロジー演習Ⅰ	2前	1AIN-5750-24C
情報テクノロジー演習Ⅱ	2後	1AIN-5760-24E



中分類	専門応用
24単位以上	

小分類

<ネットワーク>

科目名	授業を行う年次	番号
Webコンテンツ制作Ⅰ	1後	1ENN-5050-12E
Webコンテンツ制作Ⅱ	2前	1ENN-5060-22E
WebプログラミングⅠ	2後	1ENN-5091-22E
WebプログラミングⅡ	3・4前	1ENN-5092-22E
WebプログラミングⅢ	3・4後	1ENN-5093-22E
ネットワークアプリケーション構築	3・4	1ENN-6270-Z4ES
スイッチング技術	2前	1ENN-5861-22E
ルーティング技術	2後	1ENN-5862-22E
インターネット技術	3・4前	1ENN-5863-22E
SNS活用と問題解決	2前	1ENN-5010-22E
Webサービス論	2後	1ENN-5070-22E

<データサイエンス>

統計学	2後	1EDB-6091-22E
ビジネスプログラミング	2前	1EDN-6372-22E
多変量解析	3・4前	1EDN-6092-22E
データ解析	3・4前	1EDN-6050-22E
データモデリング	3・4後	1EDN-6070-22E
統計プログラミング	3・4後	1EDN-6120-22E
機械学習	3・4前	1EDN-5251-22E
人工知能	3・4後	1EDN-5252-22E
マーケティング論	1前	1EDN-6490-12E
消費者行動論	1後	1EDN-5670-12E
マーケティング・リサーチ	2前	1EDN-6470-22E
経営分析	2前	1EDN-5400-22E
会計学	2後	1EDN-5200-22E
計量経済分析	3・4後	1EDN-5450-22E

* 経営情報学科科目履修 (他学科履修)

経営情報論Ⅱ	2・3後	1EMN-5370-U2ET
--------	------	----------------

中分類	演習
-----	----

小分類

<ゼミナール基礎>必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
基礎ゼミ	2	1BSB-5280-24C

<ゼミナール専門>3年次、4年次それぞれ必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
専門ゼミⅠ	3	1ASA-5280-34C
専門ゼミⅡ	4	1ESA-5280-44C

中分類	特別講義
-----	------

小分類

<特別講義専門>

科目名	授業を行う年次	番号
特別講義「経営」	1~4	1SMN-6150-YYE
特別講義「会計」	1~4	1SAN-6130-YYE
特別講義「情報」	1~4	1SIN-6180-YYE

経営情報学科 令和2（2020）年度履修系統図（カリキュラムマップ）

必修科目42単位を含めて124単位以上修得することを卒業要件とする。

◎：必修科目 ※：留学生科目

*KIIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラムリテラシーレベル科目（必修：赤文字 選択：青文字）

大分類			基礎総合科目（必修16単位を含み40単位以上）					
中分類 総合教養 必修4単位を含み12単位以上			中分類 語学 必修2単位を含み6単位以上			中分類 実践力養成・キャリア開発 必修10単位を含み12単位以上		
小分類 ＜人文科学＞			小分類 ＜英語＞			小分類 ＜実践スキル＞		
科目名	授業を行う 年次	番号	科目名	授業を行う 年次	番号	科目名	授業を行う 年次	番号
◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS	◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS
宗教学	1後	1GGN-5660-12E	英会話 Basic I	1前	1GLN-5170-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 I	1前	1GCN-5580-12C
心理学	1前	1GGN-5850-12E	英会話 Basic II	1後	1GLN-5180-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 II	1後	1GCN-5590-12C
文学	1前	1GGN-6400-12E	英会話Advanced I	2前	1GLN-5150-22ES	文章表現 I	2前	1GCN-6410-22E
日本文化論	1後	1GGN-6260-12E	英会話Advanced II	2後	1GLN-5160-22ES	文章表現 II	2後	1GCN-6420-22E
◎情報倫理	1後	1GGN-6710-12CS	＜中国語＞			特別講義「実践力養成」		
＜社会科学＞			初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES	1～4	1SCN-6170-YYE	
法学	1前	1GGN-6450-12E	中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES	＜キャリア開発＞		
日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET	＜韓国語＞			◎キャリアデザイン入門 I	2前	1GCN-5310-22C
社会学	1後	1GGN-5650-12E	初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES	◎キャリアデザイン入門 II	2後	1GCN-5320-22C
政治学	1前	1GGN-5890-12E	中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES	キャリアデザイン I	3前	1GCN-5290-32E
経済学	1前	1GGN-5420-12E	＜日本語＞			キャリアデザイン II	3後	1GCN-5300-32E
※日本事情	1前	1GGN-6250-12E	※日本語 I	1前	1GLN-6200-12E	特別講義「キャリア」		
＜自然科学＞			※日本語 II	1後	1GLN-6210-12E	1～4	1SCN-6140-YYE	
基礎数学	1前	1GGB-5270-12E	※日本語 III	2前	1GLN-6220-22E			
＜スポーツ科学＞			※日本語 IV	2後	1GLN-6230-22E			
ウェルネス	1前	1GGN-5870-21DT	特別講義「語学」			1～4	1SLN-6160-YYE	
スポーツ	1後	1GGN-5880-21DT						
スポーツ理論	2前	1GGN-6700-22E						
ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E						

大分類 専門教育科目 (必修26単位を含み84単位以上)

中分類	専門基礎
必修8単位を含み20単位以上	

小分類

<経営・会計>

科目名	授業を行う年次	番号
◎経営学総論Ⅰ	1前	1BMB-5331-12C
会計学入門	1前	1BMB-5220-12E
◎初級簿記	1前	1BMB-5830-12C
◎簿記演習	1後	1BMB-6460-12C
マネジメント科学	2前	1BMN-6510-22ET
ビジネス実務	2前	1BMB-6300-22E
民法	2前	1BMN-6540-22E
経営情報論Ⅰ	2前	1BMN-5360-22E

<情報>

情報学入門	1前	1BIN-5690-12ES
情報数学Ⅰ	1後	1BIB-5710-12E
情報ネットワーク入門	1後	1BIN-5770-12ET
ビジネスソフト活用演習	1後	1BIB-6310-14E
統計学入門	2前	1BIB-6110-22E
◎情報セキュリティ	3・4前	1BIN-5730-Z2CS
情報システムの開発と管理	3・4前	1BIN-5700-Z2ET
マルチメディア論	3・4前	1BIN-6530-Z2ET

中分類	専門発展
必修6単位を含み14単位以上	

小分類

<経営・会計>

科目名	授業を行う年次	番号
◎マーケティング論	1前	1AMN-6490-12C
ベンチャービジネス入門	1後	1AMN-6440-12E
◎経営学総論Ⅱ	1後	1AMB-5332-12C
企業金融	2前	1AMN-5260-22E
コース論Ⅰ	2前	1AMN-5560-22E
日本経営史	2前	1AMB-6190-22E
経営分析	2前	1AMN-5400-22E
◎会計学	2後	1AMN-5200-22C
統計学	2後	1AMB-6091-22E
経営組織論	2後	1AMN-5390-22E
組織心理学	3・4前	1AMN-5950-Z2E
知的所有権	3・4前	1AMN-5980-Z2ET
労務管理論	3・4前	1AMN-6570-Z2ET
経営思想	3・4前	1AMA-5350-Z2E

<情報>

計算機システム論	1後	1AIN-5430-12ES
情報テクノロジー	1・2前	1AIN-5740-X2ET
アルゴリズムとデータ構造	2前	1AIN-5120-22ET
データベース論	2前	1AIN-6060-22ET
情報テクノロジー演習Ⅰ	2前	1AIN-5750-24C
情報テクノロジー演習Ⅱ	2後	1AIN-5760-24E
プログラミング入門	2・3前	1AIN-6381-U2ET
初級プログラミング実習	2・3後	1AIN-6382-U2ET
マネジメントゲーム	2・3後	1AIN-6520-U2ES
プログラミング論	3・4前	1AIN-6383-Z2ES
中級プログラミング実習	3・4後	1AIN-6384-Z2ES
コンピュータグラフィックス論	3・4前	1AIN-5610-Z2ET
計測・制御論	3・4後	1AIN-5440-Z2ET

中分類	専門応用
24単位以上	

小分類

<会計>

科目名	授業を行う年次	番号
中級簿記演習Ⅰ	2前	1EAN-6020-22E
中級簿記演習Ⅱ	2後	1EAN-6030-22E
原価計算論Ⅰ	2前	1EAN-5480-22E
原価計算論Ⅱ	2後	1EAN-5490-22E
財務会計論	2前	1EAN-5620-22E
財務管理	2後	1EAN-5630-22E
会社法	2前	1EAN-5230-Z2E
監査論	2後	1EAN-5240-22E
コンピュータ会計	2前	1EAN-5600-22E
税務会計論	3・4前	1EAN-5910-Z2E
税法	3・4後	1EAN-5900-Z2E

<経営>

経営戦略論	1前	1EMN-5380-12E
消費者行動論	1後	1EMN-5670-12E
マーケティング・リサーチ	2前	1EMN-6470-22E
Webサービス論	2後	1EMN-5070-22E
SNS活用と問題解決	2前	1EMN-5010-22E
コース論Ⅱ	2後	1EMN-5570-22E
経営情報論Ⅱ	2・3後	1EMN-5370-U2ET
ベンチャー企業論	2・3後	1EMN-6430-U2E
中小企業論	2・3前	1EMN-6040-U2E
ビジネスプランニング	3・4後	1EMN-6320-Z2E
計量経済分析	3・4後	1EMN-5450-Z2E

<国際ビジネス>

国際経営論	2後	1EGN-5510-22E
国際情報分析	2後	1EGN-5530-22E
ビジネス英語Ⅰ	2前	1EGN-6280-22E
ビジネス英語Ⅱ	2後	1EGN-6290-22E
TOEICⅠ	2前	1EGN-5030-22ES
TOEICⅡ	2後	1EGN-5040-22ES
国際経済論	3・4前	1EGA-5520-Z2E
国際政治学	3・4前	1EGA-5540-Z2E

* 情報ネットワーク学科科目履修 (他学科履修)

ビジネスプログラミング	2前	1EDN-6372-22E
-------------	----	---------------

中分類 演習

小分類

<プレゼミ>

科目名	授業を行う年次	番号
プレゼミⅠ	1前	
プレゼミⅡ	1後	

<ゼミナール基礎>選択必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
基礎ゼミ	2	1BSB-5280-24C
経営学基礎演習	2	

<ゼミナール専門>3年次、4年次それぞれ選択必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
専門ゼミⅠ	3	1ASA-5280-34C
経営学専門演習Ⅰ	3	
専門ゼミⅡ	4	1ESA-5280-44C
経営学専門演習Ⅱ	4	

中分類 特別講義

小分類

<特別講義専門>

科目名	授業を行う年次	番号
特別講義「経営」	1~4	1SMN-6150-YYE
特別講義「会計」	1~4	1SAN-6130-YYE
特別講義「情報」	1~4	1SIN-6180-YYE

情報ネットワーク学科 令和2（2020）年度履修系統図（カリキュラムマップ）

必修科目42単位を含めて124単位以上修得することを卒業要件とする。

◎：必修科目 ※：留学生科目

* KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラムリテラシーレベル科目（必修：赤文字 選択：青文字）

大分類			基礎総合科目（必修16単位を含み40単位以上）			大分類			基礎総合科目（必修16単位を含み40単位以上）			大分類			基礎総合科目（必修16単位を含み40単位以上）		
中分類 総合教養			中分類 語学			中分類 実践力養成・キャリア開発			中分類 総合教養			中分類 語学			中分類 実践力養成・キャリア開発		
必修4単位を含み12単位以上			必修2単位を含み6単位以上			必修10単位を含み12単位以上			必修4単位を含み12単位以上			必修2単位を含み6単位以上			必修10単位を含み12単位以上		
小分類			小分類			小分類			小分類			小分類			小分類		
＜人文科学＞			＜英語＞			＜実践スキル＞			＜人文科学＞			＜英語＞			＜実践スキル＞		
科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号	科目名	授業を行う年次	番号
◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS	◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS	◎建学の精神と人生	1前	1GGN-5470-12C	◎総合英語	1前	1GLN-5940-12CS	◎情報リテラシー演習	1前	1GCB-5780-12CS
宗教学	1後	1GGN-5660-12E	英会話 Basic I	1前	1GLN-5170-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 I	1前	1GCN-5580-12C	宗教学	1後	1GGN-5660-12E	英会話 Basic II	1後	1GLN-5180-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 II	1後	1GCN-5590-12C
心理学	1前	1GGN-5850-12E	英会話 Basic II	1後	1GLN-5180-12ES	◎コミュニケーションと自己発見 II	1後	1GCN-5590-12C	心理学	1前	1GGN-5850-12E	英会話Advanced I	2前	1GLN-5150-22ES	文章表現 I	2前	1GCN-6410-22E
文学	1前	1GGN-6400-12E	英会話Advanced I	2前	1GLN-5150-22ES	文章表現 I	2前	1GCN-6410-22E	文学	1前	1GGN-6400-12E	英会話Advanced II	2後	1GLN-5160-22ES	文章表現 II	2後	1GCN-6420-22E
日本文化論	1後	1GGN-6260-12E	英会話Advanced II	2後	1GLN-5160-22ES	文章表現 II	2後	1GCN-6420-22E	日本文化論	1後	1GGN-6260-12E	＜中国語＞					
◎情報倫理	1後	1GGN-6710-12CS	＜中国語＞			特別講義「実践力養成」	1～4	1SCN-6170-YYE	◎情報倫理	1後	1GGN-6710-12CS	初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES	＜キャリア開発＞		
＜社会科学＞			初級中国語	2前	1GLN-5810-22ES	＜キャリア開発＞			＜社会科学＞			中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES	◎キャリアデザイン入門 I	2前	1GCN-5310-22C
法学	1前	1GGN-6450-12E	中級中国語	2後	1GLN-6000-22ES	◎キャリアデザイン入門 II	2後	1GCN-5320-22C	法学	1前	1GGN-6450-12E	＜韓国語＞			◎キャリアデザイン入門 II	2後	1GCN-5320-22C
日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET	＜韓国語＞			初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES	日本国憲法	1後	1GGN-6240-12ET	初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES	キャリアデザイン I	3前	1GCN-5290-32E
社会学	1後	1GGN-5650-12E	初級韓国語	2前	1GLN-5800-22ES	中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES	社会学	1後	1GGN-5650-12E	中級韓国語	2後	1GLN-5990-22ES	キャリアデザイン II	3後	1GCN-5300-32E
政治学	1前	1GGN-5890-12E	＜日本語＞			＜日本語＞			政治学	1前	1GGN-5890-12E	＜日本語＞			特別講義「キャリア」	1～4	1SCN-6140-YYE
経済学	1前	1GGN-5420-12E	※日本語 I	1前	1GLN-6200-12E	※日本語 I	1前	1GLN-6200-12E	経済学	1前	1GGN-5420-12E	※日本語 I	1前	1GLN-6200-12E			
※日本事情	1前	1GGN-6250-12E	※日本語 II	1後	1GLN-6210-12E	※日本語 II	1後	1GLN-6210-12E	※日本事情	1前	1GGN-6250-12E	※日本語 II	1後	1GLN-6210-12E			
＜自然科学＞			※日本語 III	2前	1GLN-6220-22E	※日本語 III	2前	1GLN-6220-22E	＜自然科学＞			※日本語 III	2前	1GLN-6220-22E			
基礎数学	1前	1GGB-5270-12E	※日本語 IV	2後	1GLN-6230-22E	※日本語 IV	2後	1GLN-6230-22E	基礎数学	1前	1GGB-5270-12E	※日本語 IV	2後	1GLN-6230-22E			
＜スポーツ科学＞			特別講義「語学」	1～4	1SLN-6160-YYE				＜スポーツ科学＞			特別講義「語学」	1～4	1SLN-6160-YYE			
ウェルネス	1前	1GGN-5870-21DT							ウェルネス	1前	1GGN-5870-21DT						
スポーツ	1後	1GGN-5880-21DT							スポーツ	1後	1GGN-5880-21DT						
スポーツ理論	2前	1GGN-6700-22E							スポーツ理論	2前	1GGN-6700-22E						
ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E							ウェルネス理論	2後	1GGN-5140-22E						

大分類 専門教育科目 (必修26単位を含み84単位以上)

中分類	専門基礎
必修8単位を含み20単位以上	

小分類

<情報>

科目名	授業を行う年次	番号
情報学入門	1前	1BMB-5331-12C
情報数学Ⅰ	1後	1BMB-5220-12E
情報ネットワーク入門	1後	1BMB-5830-12C
ビジネス活用演習	1後	1BMB-6460-12C
統計学入門	2前	1BIB-6110-22E
◎情報セキュリティ	3・4前	1BIN-5730-Z2CS
情報システムの開発と管理	3・4前	1BIN-5700-Z2ET
マルチメディア論	3・4前	1BIN-6530-Z2ET

<経営・会計>

◎経営学総論Ⅰ	1前	1BMB-5331-12C
会計学入門	1前	1BMB-5220-12E
◎初級簿記	1前	1BMB-5830-12C
◎簿記演習	1後	1BMB-6460-12C
マネジメント科学	2前	1BMN-6510-22ET
ビジネス実務	2前	1BMB-6300-22E
民法	2前	1BMN-6540-22E
経営情報論Ⅰ	2前	1BMN-5360-22E

中分類	専門発展
必修6単位を含み14単位以上	

小分類

<情報>

科目名	授業を行う年次	番号
計算機システム論	1後	1AIN-5430-12ES
アルゴリズムとデータ構造	2前	1AIN-5120-22ET
情報数学Ⅱ	2前	1AIB-5720-22E
データベース論	2前	1AIN-6060-22ET
オペレーティングシステム論	2後	1AIN-5190-22E
計測・制御論	3・4後	1AIN-5440-Z2ET
モバイルネットワーク	3・4前	1AIN-6550-Z2ES
◎プログラミング初歩Ⅰ	1前	1AIB-6360-12C
プログラミング初歩Ⅱ	1後	1AIB-6371-12E
プログラミング実践Ⅰ	2前	1AIN-6341-24E
プログラミング実践Ⅱ	2後	1AIN-6342-24E
◎情報テクノロジー演習Ⅰ	2前	1AIN-5750-24C
情報テクノロジー演習Ⅱ	2後	1AIN-5760-24E

中分類	専門応用
24単位以上	

小分類

<ネットワーク>

科目名	授業を行う年次	番号
Webコンテンツ制作Ⅰ	1後	1ENN-5050-12E
Webコンテンツ制作Ⅱ	2前	1ENN-5060-22E
WebプログラミングⅠ	2後	1ENN-5091-22E
WebプログラミングⅡ	3・4前	1ENN-5092-22E
WebプログラミングⅢ	3・4後	1ENN-5093-22E
ネットワークアプリケーション構築	3・4	1ENN-6270-Z4ES
スイッチング技術	2前	1ENN-5861-22E
ルーティング技術	2後	1ENN-5862-22E
インターネット技術	3・4前	1ENN-5863-22E
SNS活用と問題解決	2前	1ENN-5010-22E
Webサービス論	2後	1ENN-5070-22E

<データサイエンス>

統計学	2後	1EDB-6091-22E
ビジネスプログラミング	2前	1EDN-6372-22E
多変量解析	3・4前	1EDN-6092-22E
データ解析	3・4前	1EDN-6050-22E
データモデリング	3・4後	1EDN-6070-22E
統計プログラミング	3・4後	1EDN-6120-22E
機械学習	3・4前	1EDN-5251-22E
人工知能	3・4後	1EDN-5252-22E
マーケティング論	1前	1EDN-6490-12E
消費者行動論	1後	1EDN-5670-12E
マーケティング・リサーチ	2前	1EDN-6470-22E
経営分析	2前	1EDN-5400-22E
会計学	2後	1EDN-5200-22E
計量経済分析	3・4後	1EDN-5450-22E

* 経営情報学科科目履修 (他学科履修)

経営情報論Ⅱ	2・3後	1EMN-5370-U2ET
--------	------	----------------

中分類 演習

小分類

<ブレゼミ>

科目名	授業を行う年次	番号
ブレゼミⅠ	1前	
ブレゼミⅡ	1後	

<ゼミナール基礎>選択必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
基礎ゼミ	2	1BSB-5280-24C
経営学基礎演習	2	

<ゼミナール専門>3年次、4年次それぞれ選択必修4単位

科目名	授業を行う年次	番号
専門ゼミⅠ	3	1ASA-5280-34C
経営学専門演習Ⅰ	3	
専門ゼミⅡ	4	1ESA-5280-44C
経営学専門演習Ⅱ	4	

中分類 特別講義

小分類

<特別講義専門>

科目名	授業を行う年次	番号
特別講義「経営」	1～4	1SMN-6150-YYE
特別講義「会計」	1～4	1SAN-6130-YYE
特別講義「情報」	1～4	1SIN-6180-YYE

KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施に関する規則第8条の規定に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長から指名された専任教職員若干名

(委員長)

第3条 委員長は、委員の中から学長が指名する。

(審議事項)

第4条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(以下「プログラム」という。)において身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法及び内容並びに実施体制に関すること
- (2) プログラムの履修を促す取組に関すること
- (3) プログラムの修了に関すること
- (4) プログラムについての自己点検評価及びその結果の公表に関すること
- (5) その他プログラムの実施に際し必要な事項

(事務)

第5条 運営委員会に関する事務は教務課で処理する。

(改廃)

第6条 この規則の改廃は教授会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施に関する規則第8条の規定に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長から指名された専任教職員若干名

(委員長)

第3条 委員長は、委員の中から学長が指名する。

(審議事項)

第4条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(以下「プログラム」という。)において身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法及び内容並びに実施体制に関する事
- (2) プログラムの履修を促す取組に関する事
- (3) プログラムの修了に関する事
- (4) プログラムについての自己点検評価及びその結果の公表に関する事
- (5) その他プログラムの実施に際し必要な事項

(事務)

第5条 運営委員会に関する事務は教務課で処理する。

(改廃)

第6条 この規則の改廃は教授会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

⑥ 取組概要

＜学生配布用ビラの作成と周知＞

👉 下記ビラをオリエンテーションで学生全員に配布

プログラム名

KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム



コンピュータの発達によりデータが豊富に入手できる時代となり、今はデータを活用する(分析し、意思決定を行う)ようになってきています。そのような大量のデータが飛び交う現代において、一番前の読み書きそろばんのように皆さんの武器・防具となるのがデータサイエンスです。本学では下記条件のデータサイエンス教育科目を修得した場合、KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了証(リテラシー・応用基礎)をそれぞれ授与致します。無防備な状態で社会に出て困らないようチャレンジしてみませんか?

【プログラムを修了するメリット】

- ❑ 今、全国のあらゆる企業が求めているデータサイエンス教育を受けた学生であることが証明される!
- ❑ あらゆる分野・業種で活躍できることが証明される!
- ❑ 周りの一歩先を行く職業人になれる!



リテラシー(18単位)

必修科目	選択科目(3科目以上修得)
情報リテラシー演習	マーケティング論
情報学入門	消費者行動論
基礎数学	マーケティング・リサーチ
情報倫理	経営分析
統計学入門	ビジネスプログラミング(NW)
経営情報論Ⅰ	経営情報論Ⅱ

応用基礎(54単位)

上記リテラシーレベル修得プラス下記16科目必修	
情報数学Ⅰ	情報ネットワーク入門
情報数学Ⅱ(NW)	データベース論
統計学	アルゴリズムとデータ構造
多変量解析(NW)	プログラミング実践Ⅰ(NW)
データ解析(NW)	プログラミング実践Ⅱ(NW)
データモデリング(NW)	機械学習(NW)
統計プログラミング(NW)	人工知能(NW)
計量経済分析	情報セキュリティ

認定に必要な科目

👉 学生掲示板にビラを掲示



👉 オリエンテーション等で学生に向けて説明(周知の徹底)



⑦ その他補足資料

<構成員>

【情報ネットワーク学科】
 橋爪善光
 荒平高章
 ディンダ・プラマンタ

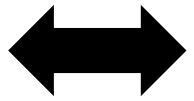
データ解析・統計的手法・人工知能・プログラミングに精通

学科間の意見交換による認定制度活性化

【経営情報学科】
 秋吉浩志

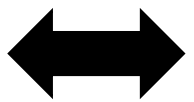
マーケティング関連分野に精通

単科大学ならではの教職員の緻密な連携が可能

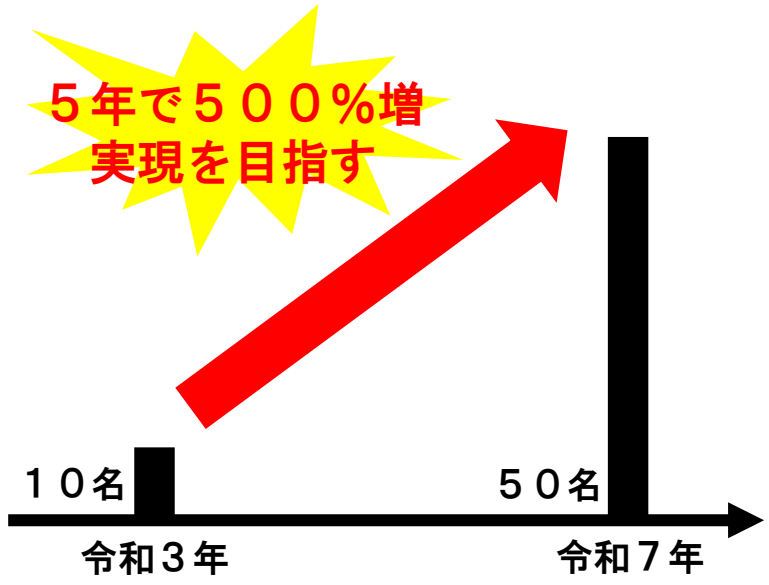


・プログラムに係る履修状況等の情報共有
 ・履修学生へのサポート体制確立

【教務課】
 幸野憲道



<履修者数・履修率の目標>



<プログラムの具体的周知方法>

九州情報大学

English 한국어 中文

文字サイズ 中 大 アクセス

受検生の方 在学生の方 卒業生の方 保護者の方 企業の方

大学案内 学部紹介 大学輪船紹介 研究紹介 就職・キャリア 入試について 日本語資料紹介

教育プログラム

HOME > 九州情報大学について > 学部紹介 > 教育プログラム

学部紹介

- 学部長メッセージ >
- 経営情報学科 >
- 情報ネットワーク学科 >
- 教育プログラム >**
- 教職課程 >
- ゼミナール >
- 所属教員 >

KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム

九州情報大学では、令和元年度1年次入学生のカリキュラムから、「KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を実施しています。コンピュータの発達によりデータが豊富に入手できる時代となり、今はデータを活用する（分析し、意思決定を行う）ようになっています。そのような大量のデータが飛び交う現状において、一昔前の読み書きそろばんのように数値の計算・処理となるのがデータサイエンスです。このプログラムには、特別な学修意欲が求められ、進修の準備段階で下位科目を履修していただき、下位科目の履修・データサイエンス・AI教育科目を履修した場合、KIIS数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了書（リテラシー・応用基礎）をそれぞれ授与いたします。無所属な状態で社会に出て困らないようチャレンジしてみませんか？

プログラムを修了するメリット

- 今、全国のあらゆる企業が求めているデータサイエンス教育を受けた学生であることが証明される！
- あらゆる分野・職種で活躍できることが証明される！
- 周りの一歩先を行く職業人になれる！

リテラシーレベル（18単位）

必修科目	選択科目
情報リテラシー基礎	マーケティング論

ホームページに掲載

⑦ その他補足資料

＜学生全員が受講できる工夫＞

リテラシー(18単位)

必修科目	選択科目 (3科目以上修得)
情報リテラシー演習	マーケティング論
情報学入門	消費者行動論
基礎数学	マーケティング・リサーチ
情報倫理	経営分析
統計学入門	経営情報論Ⅱ(経営)
経営情報論Ⅰ	ビジネスプログラミング(NW)

両学科共通科目

経営情報論Ⅱは経営情報学科開講科目、ビジネスプログラミングは情報ネットワーク学科開講科目だが、他学科履修制度によって卒業単位認定が可能

＜授業外での学習支援体制＞

